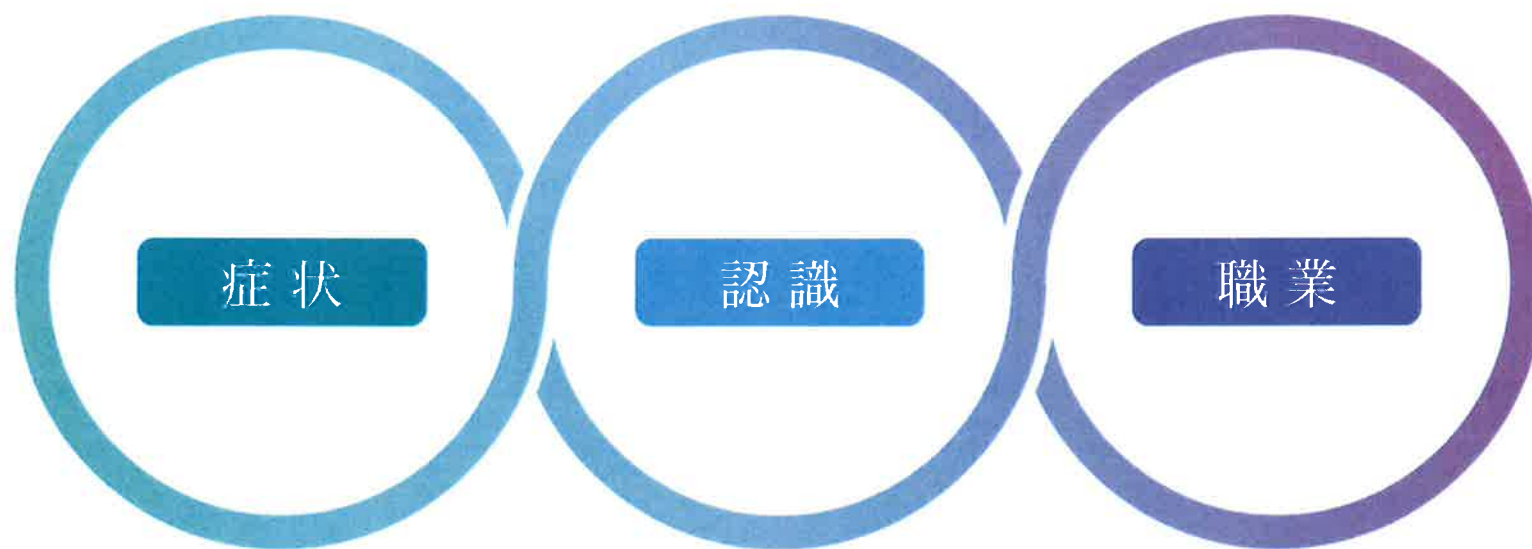




東海事業部愛知第1エリア 自立支援ケア事例報告会

2023年6月30日（金）

認知症を取り巻く、 あらゆる社会環境を変革する



予防・改善・緩和の分野において、
顧客本位のサービスを提供する

認知症に対する認識を変え、
新たな社会受容をつくる

介護職の存在価値を高め、
生涯働き続けられる専門職にする

最後まで口から食べ、外出もして GHの生活を楽しむための取り組み

愛の家GHおおはる 向日葵ユニット

1. 事例紹介

1)事例対象者の基本情報

利用者名 (S様)			
性別	女性	年齢	88歳
既往歴・現病	アルツハイマー認知症・大腸がん・誤嚥性肺炎・仙骨部褥瘡		
服薬状況	エブランチルカプセル 1日2回 1Cずつ。		
食事形態	ミキサー食 全介助	排泄形態 (場所も)	全介助 (バルーン装着)
座位姿勢	座位崩れあり	歩行状況 (器具も)	全介助 (車いす)

1. 事例紹介

2)生活歴・入居の経緯

出身地	宮崎県宮崎市生まれ。
職歴	看護師
家族等	夫（死別）、長女、長男、次女
生活歴	15歳の時に愛知県東海市で住み込みの看護学生として宮崎から出てくる。その後は看護師として勤めながら19歳で結婚される。50歳頃まで看護師を続けられる。
入居後の経緯	ご本人のお姉さまと暮らしていたが、S様が認知症を発症し悪化すると家を出て行かれてしまう。その後1人暮らしになったが娘様が心配し入居を申し込まれる。令和1年5月入居される。

1. 事例紹介

3)グループホームでの生活で支障をきたしていること

生活の支障①	傾眠	傾眠が強く食事が食べられないときがある。
生活の支障②	誤嚥	誤嚥のリスクが高い
生活の支障③	喘鳴	ゴロ音がし、咳が続くことがある。
生活の支障④	発熱	月に数回は37℃台の微熱あり。

■ 2. 状態改善後の目指す姿

- ・ **誤嚥なく経口摂取ができる**
 - ・ 傾眠時やゴロ音がある時は無理をしない。
 - ・ 食事は摂れなくても水分摂取はできる。
- ・ **好きな物を食べて頂く**
 - ・ 水分はポカリスエットが大好き。
 - ・ 喫茶店にてアイスクリームを食べることが好き。
- ・ **全身状態の悪化なく転居して頂く**
 - ・ イノラスを1日1袋飲む
 - ・ 水分摂取を1500mlめざす。

3. 取り組んだ内容

栄養状態の維持

- ・ イノラスを1日1袋飲んで頂く。
- ・ 鉄ジュース1日200ml飲んで頂く。
- ・ 水分摂取量1500mlを目指す。
- ・ 誤嚥に注意し無理はしない。
- ・ お好きな物、食べられる物を優先する。

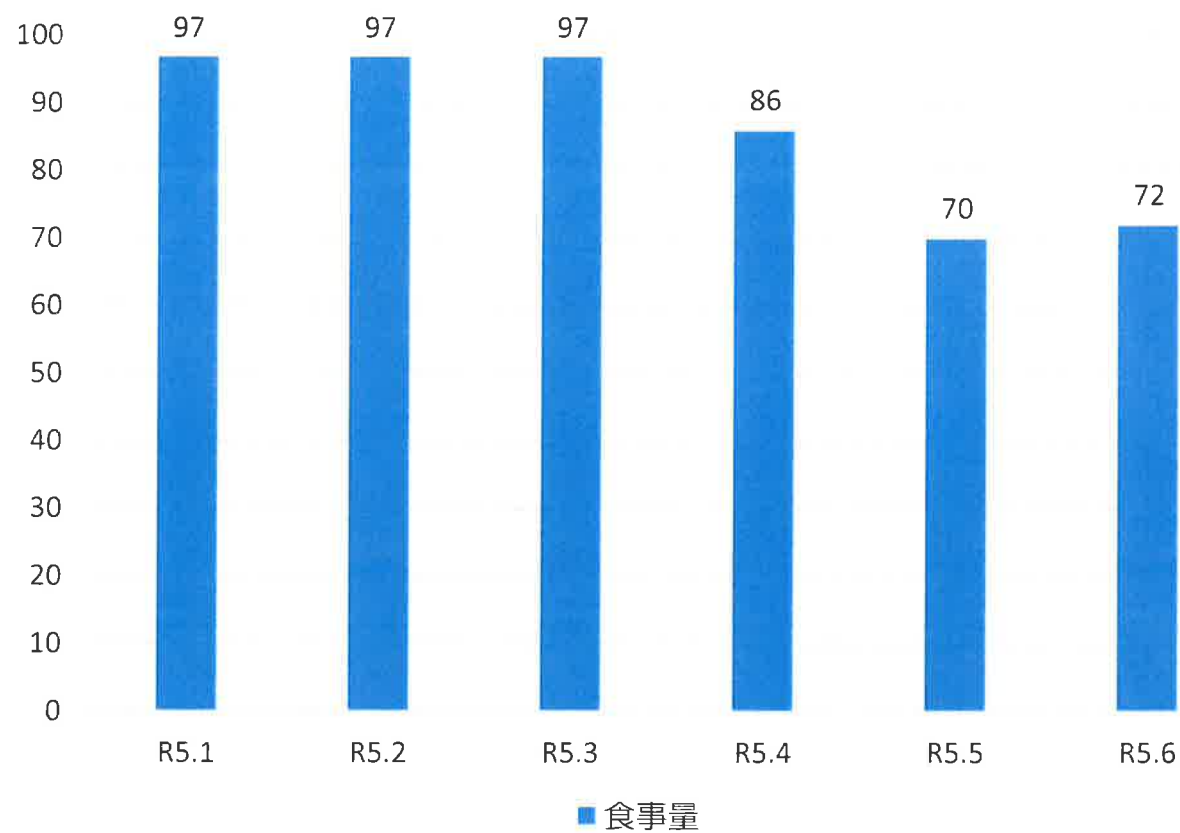
■ 3. 取り組んだ内容

全身状態の観察・ケア

- ・褥瘡の為、食事時やレクの時間以外は臥床して頂く。
- ・訪問看護が1日1回あり。
- ・栄養状態の悪化を防ぐ。
- ・発熱時は往診医にすぐに報告し支持を仰ぐ。
- ・居室の空調の管理をこまめに行う。

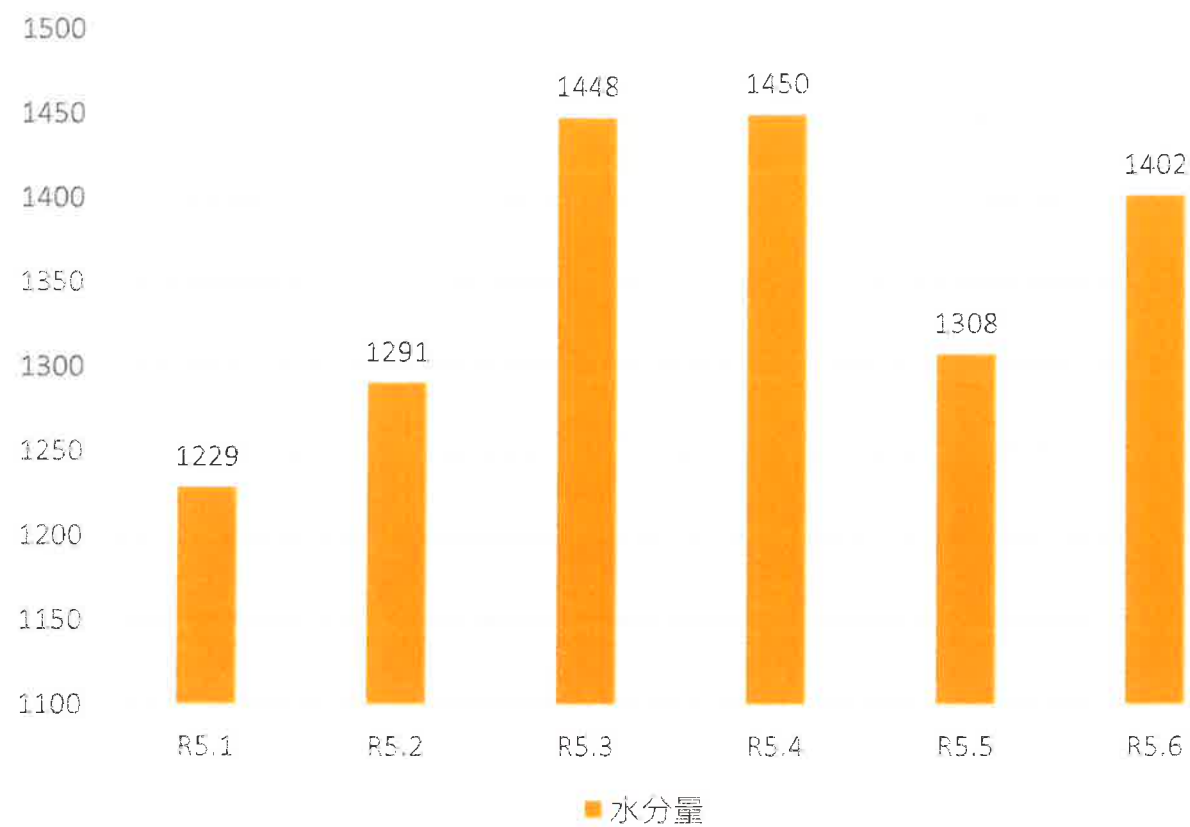
4. 結果

食事量の推移



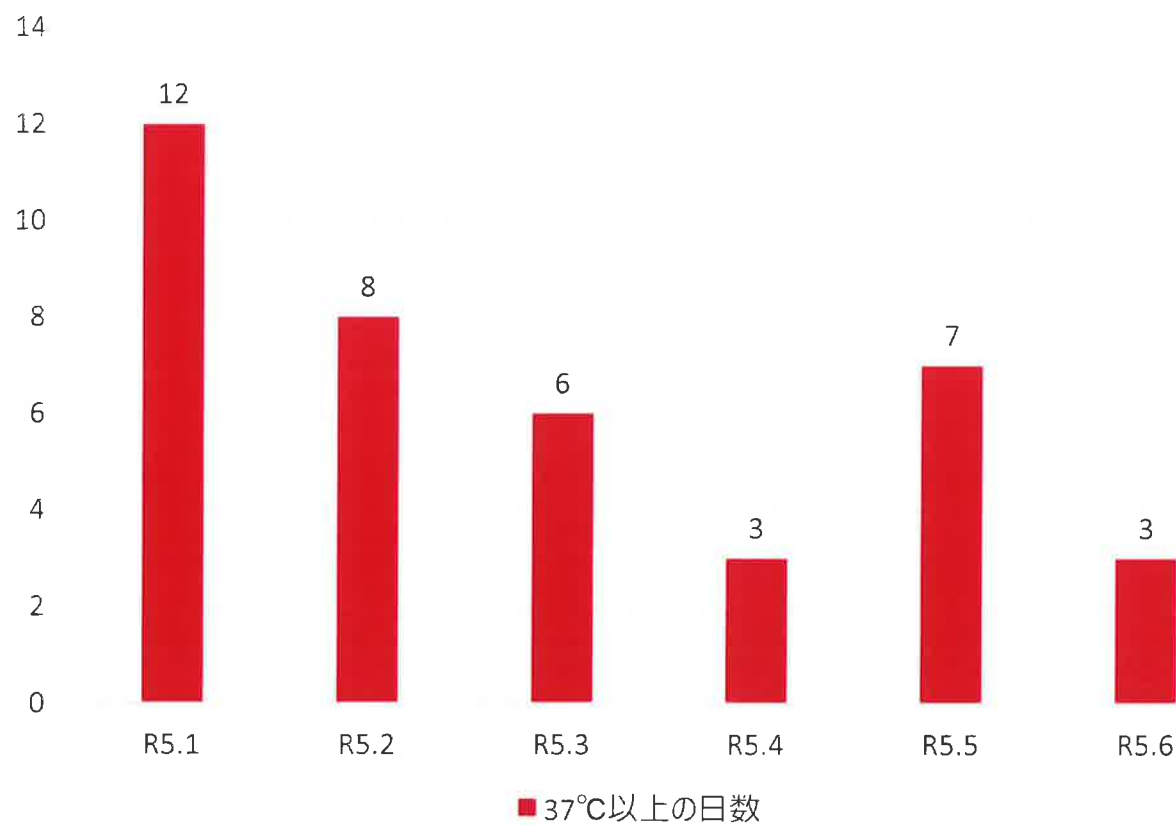
4. 結果

水分量の推移



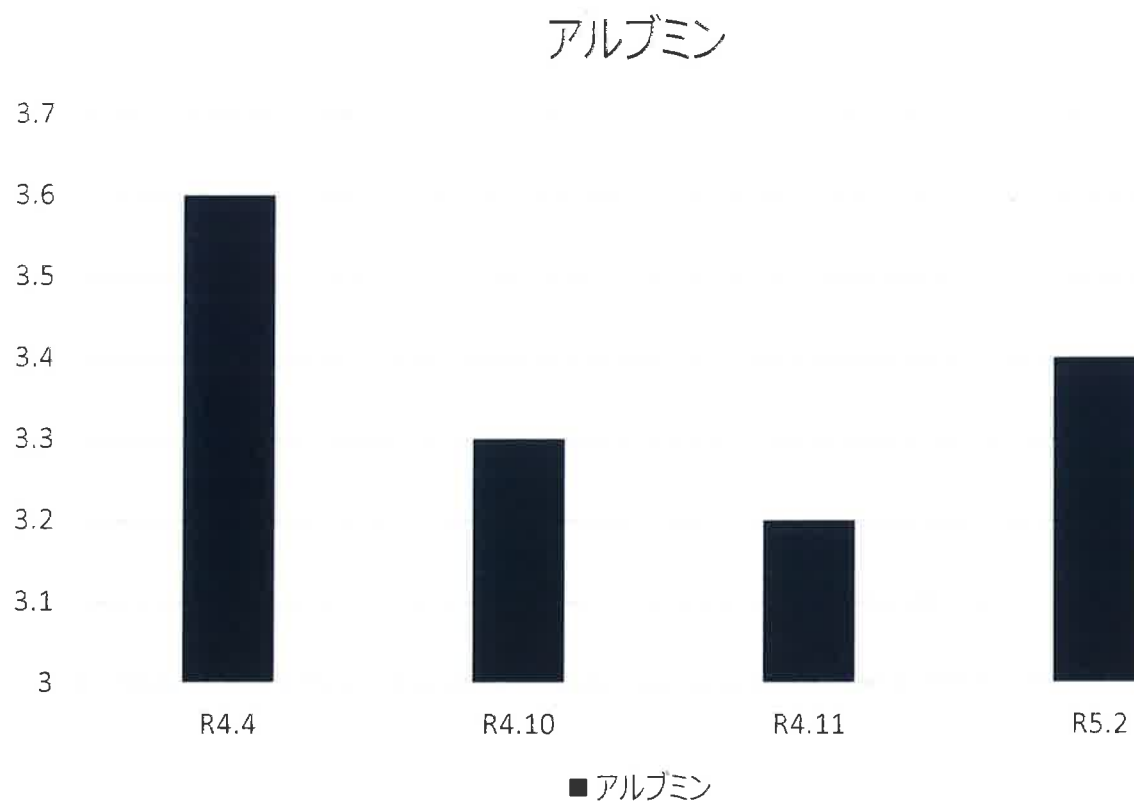
4. 結果

発熱日数の推移



4. 結果

アルブミンの推移



4. 結果

どんな状態から、どう改善できたか

	どんな状態が	どう改善した
①	傾眠傾向の時は食事が食べれない	傾眠傾向時は無理せず水分摂取を優先することでイノラスを確実に飲めるようになった。
②	誤嚥のリスクが高くむせ込みやゴロ音がある。	飲み込みや反応が鈍い時は食事を中断することで誤嚥のリスクを回避している。
③	発熱されることが多い。	水分摂取を優先したことで発熱の回数も減った。
④	経口摂取は困難になるとDrより言われた。	経口摂取でのむせ込みなど減ってきています。喫茶店にも行かれています。
⑤	7月1日で退居です。	今後吸引が必要になるからとDrの判断でナーシングホームへ転居されます。

■ 5. 課題・今後の方向性

グループホームなので医療行為ができないからと、
早めの判断を迫られるような形での退居となってしまいました。
今回の発表は自立支援ケアを含めたケアの方法で、
まだS様はグループホームで生活できたのではないかと
考える機会になればと思い発表させて頂きました。
今思うことは「まだGHで過ごせる！」です。

認知症を
超える。